

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月7日

上場会社名 株式会社 北川鉄工所 上場取引所 東
 コード番号 6317 URL <http://www.kiw.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)北川 祐治
 問合せ先責任者 (役職名)取締役執行役員 (氏名)宇田 育造 (TEL)0847-45-4560
 経営管理本部長兼調達本部長
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	31,775	7.3	1,294	57.2	2,163	55.0	1,424	63.4
25年3月期第3四半期	29,613	△7.3	823	△29.1	1,395	34.3	871	86.1

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 1,845百万円(128.9%) 25年3月期第3四半期 806百万円(280.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	14 89	—
25年3月期第3四半期	9 11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	59,622	24,868	40.9
25年3月期	52,957	23,217	42.8

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 24,383百万円 25年3月期 22,691百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0 00	—	2 00	2 00
26年3月期	—	0 00	—		
26年3月期(予想)				2 50	2 50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,800	5.8	1,800	82.0	2,100	△14.1	1,150	△23.7	12 02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

26年3月期3Q	96,508,030株	25年3月期	96,508,030株
26年3月期3Q	862,889株	25年3月期	848,589株
26年3月期3Q	95,651,985株	25年3月期3Q	95,665,650株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日）におけるわが国の経済は、経済・金融政策などからの円安・株高の効果により着実に景況感の改善が見られ、緩やかに回復しつつありますが、消費税増税後の景気減速懸念などで先行きは不透明な状況となっております。また、設備投資については、緩やかに持ち直しつつありますが、いまだ力強さに欠ける状況となっております。国際的には中国の景気減速や金融不安に加え、米国の金融緩和縮小による影響が懸念され、先行き不透明感が払拭できない状況が続いております。

当社の関連業界におきましては、海外を中心に自動車、農業機械関連が好調に推移しており、国内も建設関連がにわかに活気づき、先行きにも明るさが見えてまいりました。一方で、設備投資関連は回復の兆しはあるものの、そのスピードは遅く、力強さに欠ける状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループでは工作機器の売上は減少したものの、自動車関連部品が好調に推移したこと、建設関連製品が好調に動き出したことなどにより、全体的な売上は前年同期に比べ増加しました。また、生産効率の向上、経営品質の向上に努めるなど、収益拡大のための積極的な施策を行ってまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は 31,775百万円（前年同四半期比 7.3%増）、営業利益は 1,294百万円（前年同四半期比 57.2%増）、経常利益は 2,163百万円（前年同四半期比 55.0%増）、四半期純利益は 1,424百万円（前年同四半期比 63.4%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

金属素形材事業

自動車の世界需要は中国、北米を中心に好調を維持しており、特に平成25年の中国での新車販売台数が 2,198万台（中国汽車工業協会発表）と初めて 2,000万台を突破しました。また、一般社団法人日本自動車販売協会連合会の発表によりますと国内の新車販売台数も消費税増税前の駆け込み需要に押し上げられたこともあり、537万台と前年比 0.1%増となり、2年連続で 500万台を超えました。

当事業におきましては、自動車部品は中核である自動車ミッション部品が好調を維持してまいりました。建設機械部品は中国の需要低迷が続いており、回復にはまだ時間がかかると予測されます。農業機械部品などは為替が円安に振れたこともあり、米国向けが堅調に推移してまいりました。

このような状況のなか、グローバル展開を踏まえて既存顧客のインシエア拡大と当事業の強みを活かした新規アイテムの受注獲得に努めるとともに、国内需要の高まりに伴う生産量の増加へも対応できる生産体制の構築と不良率・歩留などの改善による生産効率の向上に努めてまいりました。

また、メキシコにおいて建設を進めておりましたメキシコ生産子会社の鋳造生産ライン設備が備わり、量産に向けた準備を予定通り進めております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の当事業の売上高は 16,431百万円（前年同四半期比 13.6%増）、セグメント利益（営業利益） 1,046百万円（前年同四半期比 44.4%増）となりました。

工機事業

一般社団法人日本工作機械工業会の発表によりますと平成25年の年間受注額は、1兆1,169億円となり前年比 7.9%減となったものの、平成25年12月の工作機械の受注額は 1,076億円(前年同月比 28.0%増)となり、9月から4か月間継続して、1,000億円を超える水準まで回復してまいりました。

当事業におきましては、販売実績は、平成24年に好調だったIT関連の設備投資が無かったことも影響し、低調に推移してまいりましたが、工作機械需要が上昇してきたなかで、当事業の受注及び売上も上向いてまいりました。一方で、新興国の台頭、日本国内生産を海外に移転する動きにより、グローバルな対応が益々重要になってきております。

このような状況のなか、主力である従来品に加え「Customized by kitagawa」をテーマに、特殊品の事業展開へもチャレンジしてまいりました。また、金属素形材事業で培った自動車部品の加工ノウハウを、当事業の強みとして自動車部品関連のお客様への提案や関係強化、新規お客様の開拓を積極的に推進してまいりました。さらに、標準品の生産効率の向上に向けた生産設備ラインの増設、見直しを行うとともに、お客様のご要望にお応えするために、カスタマイズ専任チームを設けて対応してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の当事業の売上高は 5,897百万円(前年同四半期比 12.8%減)、セグメント利益(営業利益) 696百万円(前年同四半期比 24.5%減)となりました。

産業機械事業

国内建設・土木業界は、震災復興事業の加速に加え、政権交代後に公共事業が増加に転じたことにより、全体的に好調感が見られました。また、東京オリンピック開催が決定したことにより、さらなる景気の拡大が期待されております。一方で、資材や人材に不足感が見られ、既に一部では必要数の確保ができず、価格の高騰につながっております。

当事業におきましては、生コンクリートの出荷量、セメント販売高の継続的伸張を反映し、改造工事、メンテナンス工事は売上・受注ともに好調に推移してまいりました。また、首都圏を中心とした再開発が続いており、関連業界の設備投資に対する先行きは非常に明るい状況となりました。

このような状況のなか、当事業におきましては、環境関連、特機関連では、事業領域の拡大を図るため、新商品の販売を推進してまいりました。自走式立体駐車場では、アミューズメント施設や医療機関をターゲットに、計画の初期段階での情報入手に努めてまいりました。また、他社への優位性を保ちつつ、設計費や制作費、現地工事においてもコストダウンを徹底してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は 9,446百万円(前年同四半期比 12.7%増)、セグメント利益(営業利益) 1,217百万円(前年同四半期比 45.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、主に有形固定資産の増加により、前連結会計年度末に比べて6,665百万円増加し、59,622百万円となりました。

負債は、主に長期借入金の増加により、前連結会計年度末に比べ5,013百万円増加し、34,754百万円となりました。

純資産は、四半期純利益の計上、時価の上昇によるその他有価証券評価差額金の増加等があり、1,651百万円増加し、24,868百万円となりました。純資産から少数株主持分を差し引いた自己資本は24,383百万円となり、自己資本比率は40.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の連結業績予想につきましては、平成25年10月30日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」の予想数値に変更はございません。

業績予想は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。その場合は、業績見込みの見直しを行い、その結果、業績予想の修正が必要と判断したときには速やかに開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,006	7,312
受取手形及び売掛金	13,626	14,456
商品及び製品	2,984	3,540
仕掛品	1,875	2,794
原材料及び貯蔵品	1,085	1,409
その他	1,001	1,283
貸倒引当金	△11	△12
流動資産合計	29,568	30,784
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,323	6,430
機械装置及び運搬具（純額）	8,391	10,199
その他（純額）	7,463	7,122
有形固定資産合計	19,177	23,752
無形固定資産		
	367	445
投資その他の資産		
その他	3,943	4,756
貸倒引当金	△99	△116
投資その他の資産合計	3,844	4,640
固定資産合計	23,389	28,838
資産合計	52,957	59,622

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,826	8,863
短期借入金	6,045	4,575
1年内返済予定の長期借入金	2,444	1,194
未払法人税等	1,248	216
賞与引当金	451	216
その他	2,754	2,521
流動負債合計	19,769	17,586
固定負債		
長期借入金	4,781	11,693
退職給付引当金	3,397	3,766
環境対策引当金	1,041	840
その他	751	867
固定負債合計	9,970	17,167
負債合計	29,740	34,754
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,640	8,640
資本剰余金	5,089	5,089
利益剰余金	8,574	9,807
自己株式	△143	△145
株主資本合計	22,161	23,391
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	647	1,013
為替換算調整勘定	△116	△21
その他の包括利益累計額合計	530	991
少数株主持分	525	485
純資産合計	23,217	24,868
負債純資産合計	52,957	59,622

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	29,613	31,775
売上原価	24,666	26,237
売上総利益	4,947	5,537
販売費及び一般管理費	4,123	4,243
営業利益	823	1,294
営業外収益		
受取利息	45	64
受取配当金	39	44
持分法による投資利益	56	52
為替差益	355	636
その他	184	236
営業外収益合計	680	1,034
営業外費用		
支払利息	83	140
その他	24	25
営業外費用合計	108	166
経常利益	1,395	2,163
特別利益		
固定資産売却益	—	25
受取保険金	153	—
特別利益合計	153	25
特別損失		
固定資産売却損	—	10
固定資産除却損	37	32
特別損失合計	37	43
税金等調整前四半期純利益	1,511	2,145
法人税、住民税及び事業税	669	624
法人税等調整額	△1	203
法人税等合計	667	827
少数株主損益調整前四半期純利益	843	1,317
少数株主損失(△)	△28	△106
四半期純利益	871	1,424

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	843	1,317
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△66	366
為替換算調整勘定	28	145
持分法適用会社に対する持分相当額	0	15
その他の包括利益合計	△37	527
四半期包括利益	806	1,845
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	813	1,885
少数株主に係る四半期包括利益	△7	△39

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	金属素形材 事業	工機 事業	産業機械 事業	
売上高				
外部顧客への売上高	14,468	6,766	8,378	29,613
セグメント間の内部 売上高又は振替高	114	134	1	250
計	14,583	6,900	8,380	29,864
セグメント利益	724	921	838	2,484

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,484
全社費用(注)	△1,661
四半期連結損益計算書の営業利益	823

(注) 主に提出会社の管理部門に係る費用及び各セグメント共通の費用で便益の程度が直接把握できない費用部分であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	金属素形材 事業	工機 事業	産業機械 事業	
売上高				
外部顧客への売上高	16,431	5,897	9,446	31,775
セグメント間の内部 売上高又は振替高	128	7	2	138
計	16,559	5,905	9,448	31,913
セグメント利益	1,046	696	1,217	2,960

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,960
全社費用(注)	△1,665
四半期連結損益計算書の営業利益	1,294

(注) 主に提出会社の管理部門に係る費用及び各セグメント共通の費用で便益の程度が直接把握できない費用部分であります。